



## □基本理念

○利用者の心と体をもっと大切に考え、自立と社会参加を援助することを基本理念としています。

○温もりのある心と未来を見通す広い視野をもって、利用者一人一人の持つ能力や才能を存分に発揮できるよう努めます。

## 日本の伝統的な行事～七夕～にふれて

施設長 澤井 康郎

6月の終わりから、自宅の最寄り駅の改札口を入ったところに、竹が立ててあって、そこに駅利用者に願い事が書けるように、机を置き短冊と鉛筆が備えてありました。足を止めて、その短冊を読ませていただくと、「遅刻しないようにする」など願い事よりも誓いみたいなものや「息子に彼女ができますように」など親が子供を心配するものがあり、ほほえましく感じました。たんぽぽでも、こぶしから切った竹をいただいてきて、利用者さんに願い事を書いていただきました。



さて、七夕というと織姫と彦星のお話が思い浮かびます。昔、天の神様の娘に織姫という機織りの上手な女性がいました。しばらくして、牛使いの彦星という男性を好きになり、結婚しました。二人は働き者だったのに、結婚してからは怠けてばかりいました。怒った天の神様は二人を引き離し、彦星を空のかなたに追放してしまいました。それから、織姫は毎日悲しみに暮れました。見かねた天の神様は年に一度、天の川のほとりで7月7日に会うことを許してくれました。これは、中国から昔、伝わってきたお話で、このお話と日本の秋のお米や作物の豊作を祈ったことが一緒になってできたのが七夕祭りです。夜空に見えること座のベガ（織姫）とわし座のアルタイル（彦星）が天の川を挟んで近くに見えることから、こんなお話ができたようです。願い事の短冊は、中国のお裁縫が上手になりますようにとの願い事をする風習から来ています。七夕は棚機（たなばた）が語源のようで、古い日本の禊ぎ行事で、乙女が着物を織って棚に供え、神様を迎えて秋の豊作を祈り人々のけがれをはらうというものでした。

こぶしのある東久留米では、昔は8月に七夕を行っていて、若い竹を切ってきて庭に立てていたそうです。トトロが傘代わりに持っている里芋の葉に貯まった水滴で墨をすって字を書くと、字が上手になるといって、色紙の短冊に願い事を書いて結び付けたそうです。また、野菜やとうもろこし、西瓜、饅頭、うどんなどを供え、大釜で湯を沸かし、家族みんなで行水をしたそうです。これは、前述の棚機と同様かと思われます。

竹は個人ではなかなか手に入りませんので、私も学校勤務の時は役所に許可をもらい、公園から切り出してくることもありました。夏の風物詩として続けることはよいことだと思います。

たんぽぽの利用者さんのそれぞれの願い事が、しっかり叶いますように。

# 8月の活動予定

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11 山の日	12 夏季休暇
13 夏季休暇	14 夏季休暇	15 夏季休暇	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26 開所日
27	28	29	30	31		

## ～使用済み電池等

### ご協力ありがとうございます～

前回の募集からすぐにご近所の方からもご協力いただきました。電池は絶縁のテープはりもご利用者の指先やテープの使い方にも役立っています。ご面倒な絶縁をせずお気軽にお持ちください！

## ～ベルマークを集めています～

毎年たんぽぽではお隣の南町小学校へ集めたベルマークを寄付しています。ご家庭でベルマークを見つけましたら、たんぽぽでも回収していますので、お持ちください(^)/

地域のみなさんと  
地域のために！



自主製品を発信しています

## Instagramのご紹介

スマートフォンのカメラアプリを立ち上げ、右のQRコードにカメラを向けると、URLが認識され、タップをする  
と、WEBサイトにアクセスできます。



皆様のアクセス  
お待ちしております！